

修学資金制度の進捗状況について

		前回運営協議会（本年3月）時点の状況	現在までの進捗状況	今後の予定
資金循環型	宮城県	<p>[制度設計]</p> <p>○修学資金の運営主体をどうするか、指定医療機関への義務年限10年に初期臨床研修2年を含むか等、制度の詳細については未調整。</p>	<p>[制度設計]</p> <p>○協議の結果、以下の事項について基本的に合意し、調整中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営主体は「社団法人」とする。 ・指定医療機関への義務年限10年には、初期臨床研修2年を含まないこととする。 (知事が別途指定する診療科に勤務する場合等は特例として上記義務年限を8年とする) <p>[修学生確保の取組]</p> <p>○東北6県高校進学指導者への説明会開催(6月実施済)</p> <p>○東北6県高校訪問・説明(6月～7月)</p> <p>○宮城県主催の医学研究講座での説明(7月実施済)</p>	<p>[制度設計]</p> <p>○社団法人の定款を作成する。(8月予定)</p> <p>○宮城県と本学で修学資金に関する基本協定を締結する。 (8月予定)</p> <p>○本学修学資金貸与規程を作成する。(8月予定)</p> <p>[修学生確保の取組]</p> <p>○進学予備校主催の高校生、予備校生を対象とする説明会に参加(7月～10月)</p> <p>○高校生を対象とした東北6県での進学説明会の開催(7月～10月)</p> <p>○オープンキャンパスでの説明コーナー設置(8月)</p>
	東北5県	<p>[制度設計]</p> <p>○本学が各県それぞれ1名分の貸与資金を拠出(その他の制度の内容は宮城県と同じ)することとし、各県に協力・検討を依頼した。その際、初期臨床研修期間は、義務年限や資金拠出の対象とせず、研修後の10年を対象とすべきとの意見があった。</p>	<p>[制度設計]</p> <p>○本学の責任において各県1名を選考する。受入れ病院については、初期研修修了までに、本学の責任において選定する方式とする。【別紙2参照】 なお、受入れ病院の選定にあたっては、県当局や医学部等からの助言を得ながら進めることとする。義務年限は、各県の実情・要望を踏まえ、協議のうえ、対応する予定。</p> <p>○本学理事長が各県の知事・副知事等を訪問し、今後の協力を要請。(1県については、今後訪問予定)</p> <p>[修学生確保の取組]</p> <p>○上記、宮城県に同じ。</p>	<p>[制度設計]</p> <p>○制度の詳細について、引き続き各県と協議のうえ、対応する。</p> <p>[修学生確保の取組]</p> <p>○上記、宮城県に同じ。</p>
資金費消型		<p>[制度設計]</p> <p>○おおむね既存枠で対応することで各県の理解が得られたが、「制度趣旨から、既存制度の利用は難しい」との懸念が示された県があった。</p>	<p>[制度設計]</p> <p>○「既存制度での対応は困難」とされていた県については、協議の結果、既存制度で対応していただくこととなった。 これにより、東北5県の合計で、14～20名程度の利用が見込めることとなった。【別紙1参照】</p> <p>○高校・学生向けのパンフレットに記載する修学資金制度の概要について、各県に照会し了解を得た。 【別紙3参照】</p> <p>○本学理事長が各県の知事・副知事等を訪問し、今後の協力を要請。(1県については、今後訪問予定)</p> <p>[修学生確保の取組]</p> <p>○上記、宮城県に同じ。</p>	<p>[制度設計]</p> <p>○制度の詳細について、引き続き各県と協議のうえ、対応する。</p> <p>○修学生を確実に確保し実績を重ねることにより、将来的な各県利用枠の拡大と本学枠設定に繋げる。</p> <p>[修学生確保の取組]</p> <p>○上記、宮城県に同じ。</p>

東北地域医療支援修学資金制度に係る各県との調整状況について

1. 各県の利用見込み

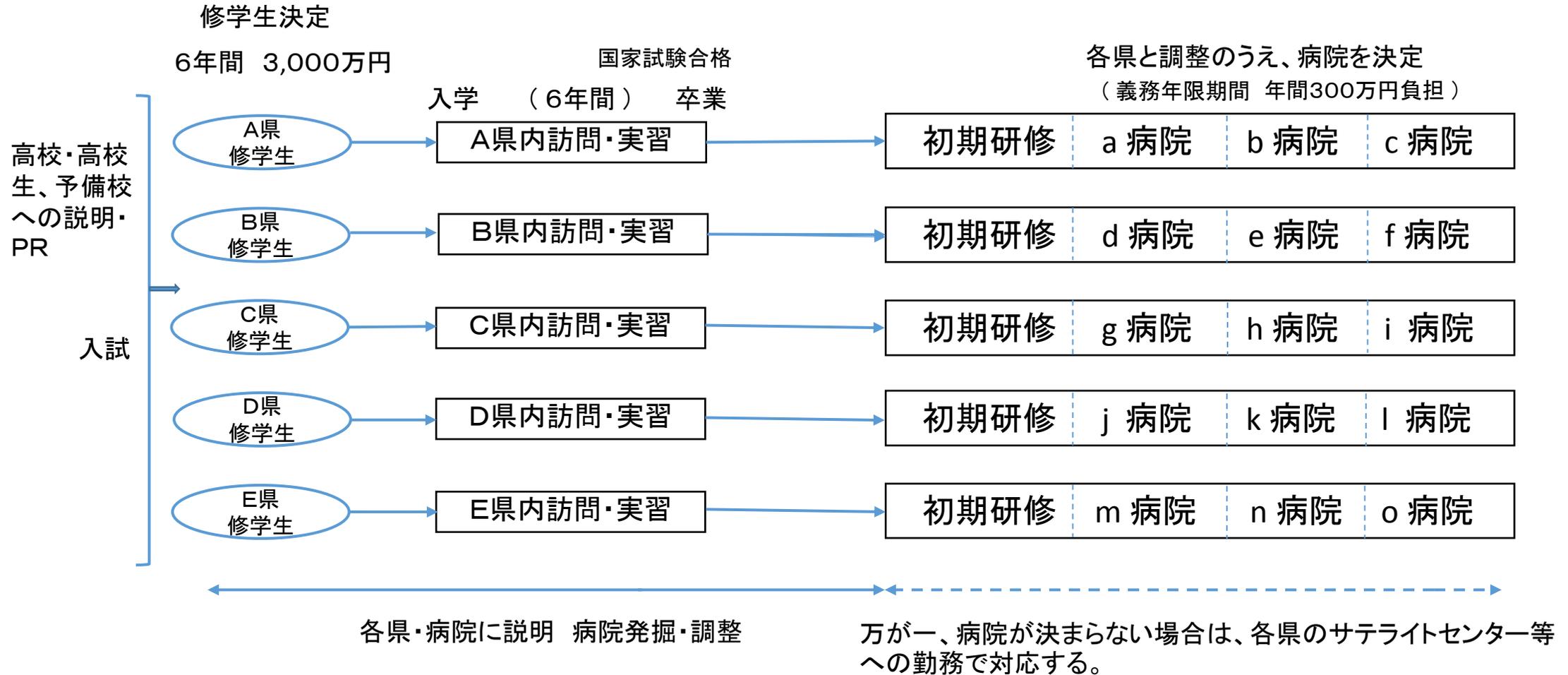
	資金循環型	資金費消型
山形県	<p>本学の責任において各県1名を選考する。受入れ病院については、初期研修修了までに、本学の責任において選定する方式とする。</p> <p>なお、受入れ病院の選定にあたっては、県当局や医学部等からの助言を得ながら進めることとする。義務年限は、各県の実情・要望を踏まえ、協議のうえ、対応する予定。</p>	既存枠で対応（例年の枠空き状況から、3～5名程度見込まれる。）
秋田県		既存枠で対応（例年の枠空き状況から、5名程度見込まれる。）
青森県		既存枠で対応（例年の枠空き状況から、1～3名程度見込まれる。）
福島県		既存制度で対応（活用できる既存枠の全体数は3名）
岩手県		既存制度で対応（例年の枠空き状況から、4名程度見込まれる。）

2. 本学医学生が利用可能な各県の修学資金の状況（資金費消型）

		平成24年度	平成25年度	平成26年度
東北五県 合計	定員	66	66	66
	実績	39	44	44
	差引	27	22	22

以上

東北5県修学資金循環型スキーム(案)



卒業後の東北地方への定着を促進し、学生を経済的に支援するための修学資金を設けます。入学定員100人のうち最大で55人までがこの制度を受けることができる予定です。東北の医療を支える医師として地域医療にたずさわり活躍してもらうことを目的としています。

【入試区分】 平成28年度 医学部 募集定員:100名

区分	修学資金制度の内容	返還免除条件	金額(6年間)	定員数
修学資金枠	A方式 東北地域医療支援修学資金特別選抜(宮城県)	宮城県知事が指定する医療機関等に10~12年間勤務すること(初期臨床研修期間の2年間を含む)	3000万円	30名
	東北地域医療支援修学資金特別選抜(宮城県を除く東北5県から貸与の申し出がある場合)	宮城県以外の東北5県で医療機関等に10~12年間勤務すること		~5名
B方式	東北地域医療支援修学資金特別選抜(宮城県を除く東北5県)	宮城県以外の東北5県で医療機関等に8~9年間勤務すること	本学の修学資金 1500万円 + 各県の修学資金 約1100万円~	20名
一般枠	東北地域医療支援修学資金制度の利用なし	—	他の修学資金の利用を妨げるものではありません	45~50名

※修学資金A方式、B方式、一般枠ともに、併願が可能です。希望順位をつけてお申込みください。受験に当たり出身地、出身校は問いません。

【6年間の学費】

修学資金枠 A方式、B方式、一般枠ともに、入学手続き時に入学金と施設設備費をお支払いただく必要がございます。

	入学手続き時	1年次	2年次以降	合計
入学金	1,000,000円	—	—	1,000,000円
授業料		3,000,000円	3,000,000円	18,000,000円
施設設備費	500,000円	500,000円	1,000,000円	6,000,000円
教育充実費		1,500,000円	1,500,000円	9,000,000円
合計	1,500,000円	5,000,000円	5,500,000円	34,000,000円

平成28年度 医学部(設置認可申請中)入試日程並びに概要

Information on Entrance Examinations

修学資金枠 A方式、B方式、一般枠のいずれも、入学試験は一般入試として同時に行います。

【一般入試】

	一次試験	二次試験(一次試験合格者のみ)
試験日	平成28年2月1日(月)	平成28年2月13日(土)
実施都市	仙台試験場 東北薬科大学	仙台試験場:東北薬科大学
	東京試験場 ベルサール渋谷ガーデン(東京都渋谷区南平台町16-17)	
	TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター(東京都中央区八重洲1-2-16) TKP新宿カンファレンスセンター(東京都新宿区西新宿1-14-11)	
試験科目	理 科:「物理」「化学」「生物」から2科目選択 数 学:「数学I」「数学II」「数学III」「数学A」「数学B」 外国語:「コミュニケーション英語I」「コミュニケーション英語II」 「コミュニケーション英語III」「英語表現I」「英語表現II」 小論文	面接
合格発表	平成28年2月8日(月)	平成28年2月19日(金)